

## エリダヌス座

オリオン座「リゲル」のすぐ西から、南天に向かって蛇行しながら続く星の連なりがエリダヌス座です。星座の多くは人間や動物ですが、エリダヌス座は川を表しています。オリオンのそばから始まる川の流は南に延び、 $\alpha$  アケルナル(1等星)まで続きます。アケルナルはアラビア語「川の果て」が語源とされています。しかし、この「果ての星」が見えるのは九州南部より南だけで、浜松では地平線の下にあって見えません。浜松ではエリダヌス座の全景を見ることはできないのは残念です。アケルナルの明るさはベテルギウスに近く、色は青色の高温な恒星です。

太陽神アポロンの息子ファエトン

は、友達への自慢話のタネにしようと、父にねだって太陽の馬車を無理やり借り出し、空へとかけのぼりました。ところが馬車を引く4頭の天馬たちはいつもと乗り手がちがうのに気付いて、勝手気ままに走り出してしまいました。太陽の馬車が天から駆け下りてきた地上では火山が噴き出し、暑い砂漠ができ、雲は真っ赤に焼けたられました。これを見たゼウスはあわてて雷電の矢を放って太陽の馬車を打ち砕きました。そして、ファエトンはエリダヌス川に落ちていったのです。

(参考図書：全天星座百科：藤井旭著：河出書房新社)



## 今月の見どころ星どころ しぶんぎ座流星群

文・浜松市天文台  
喜澤 俊輔



3大流星群の1つですが、最も多くの流星が流れる(極大)時間が短く、年によって見え方が大きく変わります。しぶんぎ座ってなじみのない星座ですよ。それもそのはず、今は使われていない星座です。りゅう座、ヘルクレス座、うしかい座の境界付近にありました。四分儀(しぶんぎ)は象限儀(しょうげんぎ)とも言われ、円の4分の1の扇形をした目盛りの付いた定規に照準類が付いていて天体観測の道具として使われました。

この流星群のおすすめ観察時間は、放射点が上ってくる真夜中ごろから放射点が高くなる夜明け前までです。極大時刻は4日0時頃と予想されています。今年は、月齢4の細い月が21時半頃に沈みます。月明かりの影響を受けないので条件は良好です。しかし、この流星群は、極大時刻も出現数も年により大きく変動するので、活発に出現するかどうかは、見てみるまでわかりません。浜松市天文台では、1月4日(土)は星空観望会を行います。流星群だけの特別観望会ではありませんが、流星も楽しめるかもしれません。



1月4日 午前3時頃  
流星は放射点の周囲だけでなく、放射点を中心として空全体に出現します。画像の流星はイメージです。この通りに出現するわけではありません。

## 星空クイズ

火星が見ごろを迎えました。ふたご座で赤く輝いています。火星は、2年2ヶ月に1度地球に接近して見やすくなります。酸化鉄の成分の影響で赤く輝く火星は、まさに火の星のようです。火星のように赤く輝き、「火星に対抗するもの」という意味を持つ恒星があります。それは次のうちどれでしょうか。

- A ベテルギウス(オリオン座)
- B アルデバラン(おうし座)
- C アンタレス(さそり座)

答えは中面へ

# 星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

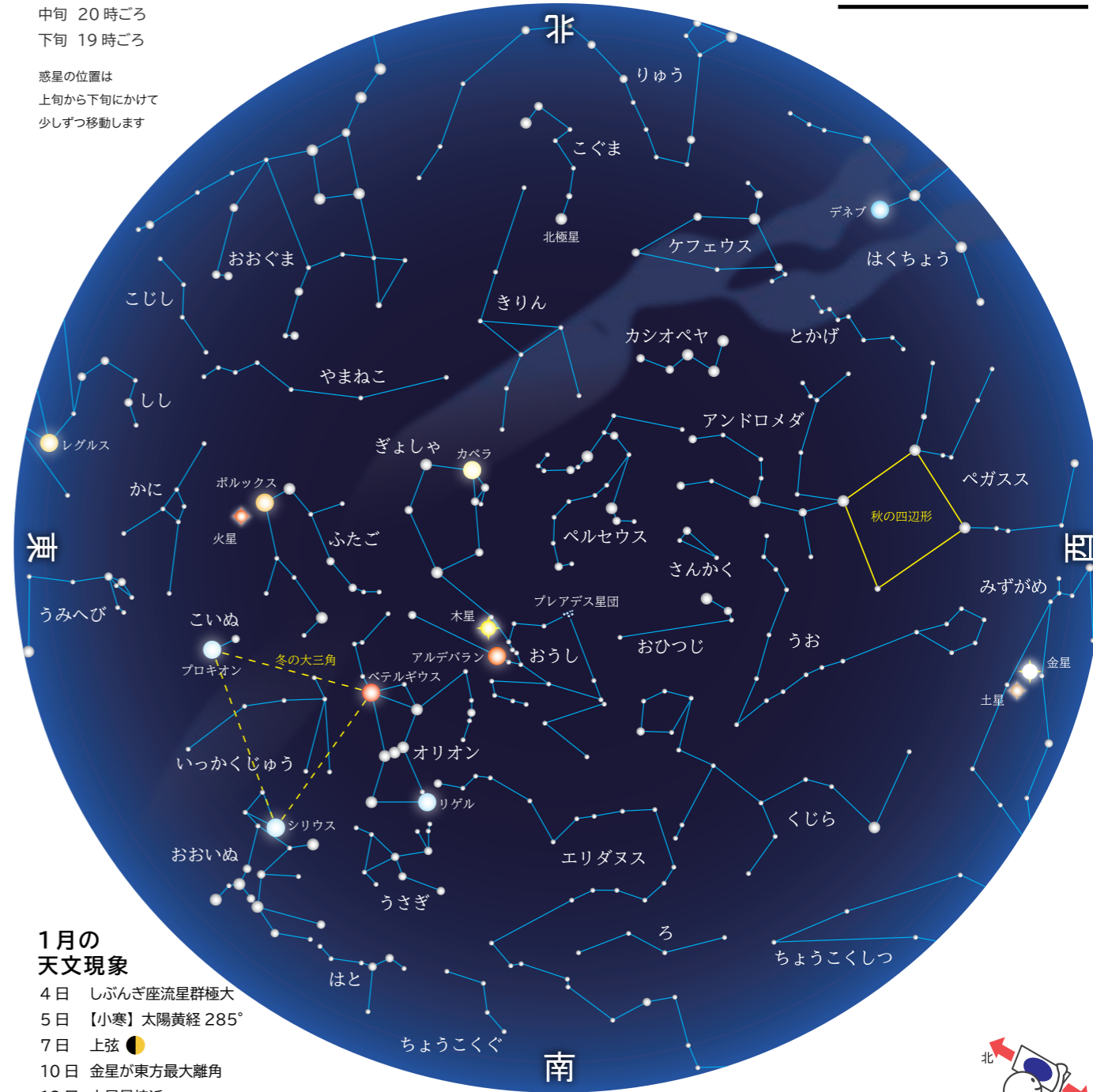
2025年1月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は  
上旬から下旬にかけて  
少しずつ移動します



## 1月の天文現象

- 4日 しぶんぎ座流星群極大
- 5日 【小寒】太陽黄経285°
- 7日 上弦
- 10日 金星が東方最大離角
- 12日 火星最接近
- 14日 満月
- 17日 火星が衝
- 20日 【大寒】太陽黄経300°
- 22日 下弦
- 29日 新月

上の星図は、空にかざして  
実際の方角と合わせてご覧ください。



あけましておめでとうございます。初日の出はご覧になりましたか。日本では昔から初日の出と共に年神様が現れると信じられていました。初日の出を拝むことで、その年の豊作や幸福を祈願したとことです。この習慣は明治時代に全国に広まっていったようです。寒い中、日の出を待つ体は冷えってきます。太陽が昇ってくると、日に照らされて体が温くなり、太陽からエネルギーをもらって力がみなぎり、「今年もがんばろう!」と思えますね。今年は太陽活動の極大期になります。大きな黒点が見られるでしょうか。今年もよろしくお願いたします。



# 浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



## イベント情報

星空観望会、太陽・昼間の星観望会は予約優先、その他の催しは事前予約制となります。天文台ウェブサイトよりお申込みください。

### 1/4・11 18・25 星空観望会

#### 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

土

NG

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付(30分ごと先着20組)  
※1/4(土)の予約は12/25(水)13時から受付開始

### 1/5 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。

日

NG

時間 14:00～16:00

会場 天文台屋上

申し込み 12/25(水)13時から受付(30分ごと先着20組)

### 1/12 火星観望会

地球に最接近する火星の観望会です。

日

NG

時間 19:30～21:00

会場 天文台屋上

申し込み 1/8(水)13時から受付(30分ごと先着20組)

### 1/26 メシエウォーキング

高感度ビデオカメラ(CMOS)を使って星雲や星団の電視観望を楽しみましょう。撮影したメシエ天体のデータはおみやげにどうぞ。

日

NG

時間 19:00～21:00

会場 天文台屋上

申し込み 1/22(水)13時から受付(先着10組)

裏面のクイズの答え：正解は、C「アンチ アーレス(火星に対抗するもの)」からアンタレスになった

## 星空を楽しむ

## 星空の楽しみ方は星の数ほど…

文・写真 浜松市天文台事業協力者の会 黒田由美子

星座の世界に浸ったり、宇宙の神秘を感じたり、流れ星を待ったり、写真に輝きを残したり、星空案内を聞いたり、人工衛星を探したり…。どこからでもみんな同じ宇宙を見上げて楽しめます。明るい街中でも見える月や惑星、少し暗い場所では星座を探すのもいいですね。冒険気分で海や山まで足を伸ばせば、まるで宇宙に流れている川の様な天の川を眺められるかも…。私たちの地球を含む太陽系は天の川銀河の中にあり、この天の川銀河を内側から見ているのが天の川です。キャンプ場や山小屋なら朝焼けや夕焼け、昼は蒼い空と迫力の山並みを満喫。そして夜は満天の星空や時々出る流れ星を眺める事が出来ます。(但し危険な場所もあるので経験者と一緒に)

もちろん、浜松天文台も皆様に星空を楽しんで貰えるよう色々な工夫をしてお待ちしています。ぜひ、気軽に覗きにいらしてください。(お一人様でも大丈夫ですよ！)



# 浜松科学館

## プラネタリウム番組情報

解説員が星空をライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



プラネタリウム	プラネタリウム	キッズプラネタリウム	大型映像
<p>まわる星と、かわる季節</p> <p>季節はなぜ変わるの？見える星座が変わるのはどうして？なんで夏があつくて、冬がさむいの？カギを握るのは地球の“回転”です。かわる季節と、まわる星の関係を紹介します。</p> <p>2025.1.15 15:50-16:30 平日のみ投映</p>	<p>星空マルシェ</p> <p>～解説員による星空解説・宇宙の話～</p> <p>気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。今年の夏や秋の天文現象などもお話しします。</p> <p>2025.1.15 15:50-16:30 平日のみ投映</p>	<p>きらきら☆ こんやのおほしさま</p> <p>今夜空を見上げると、どんな星や星座が見えているかな？みんなでいっしょに星を見よう！</p> <p>土日祝、長期休暇期間のみ投映 10:30～11:05</p>	<p>すみっくぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり</p> <p>平日/土日祝 15:50～16:30 土日祝は13:15～13:55も上映 ※1/15～ 土日祝・長期休暇期間のみ上映</p>
<p>2025.1.15 15:50-16:30 平日のみ投映</p>	<p>1/15～ 15:50～16:30 平日のみ投映</p>	<p>土日祝・12/24～1/6 10:30～11:05</p>	<p>夜の科学館 特別投映</p> <p>高校生以上限定</p> <p>星のソムリエ®が語る 星と酒のはなし</p> <p>今年のオトナの嗜みは星とお酒で始めましょう。</p> <p>1/10 18:00～18:40 19:00～19:40</p>

## へびの星座

2025年は巳年(みどし、へびどし)です。「巳」は草木の成長が極限に達して、次の生命が宿され始める時期とされています。干支はもともと農業の時節を表す言葉でした。それをわかりやすく覚えるために動物があてられたのです。「巳」には「へび」があてられていますね。へびは、よく神話に登場してくる生き物で、星座にもなっています。みなさんはへびの星座がいくつあるか知っていますか？

答えは3つです。一つ目は、うみへび座です。春の空で見られ、88個ある星座の中で最も大きい星座です。ギリシャ神話で登場する怪物ヒドラがモデルになっており、勇者ヘラクレスに退治されました。ヒドラの首が星座として描かれたものです。

二つ目は、へび座です。夏の空で見られ、星座の中で唯一2つの領域に分けられています。夜空では、右からへびの頭・へびつかい座・へびのしっぽという順番で並んでいます。へびつかい座は、医者の神(医神)アスクレピオスがモデルです。へびは脱皮をすることから不老不死や永遠の象徴と捉えられ、命を扱う医神とともに描かれています。

三つ目は、みずへび座です。こちらは南半球の空にあるため、日本からはほぼ見えません。また星座の中では新しく作られたもので、神話はなく、名前の通り水中に暮らすへびを描いています。北半球のうみへび座に対して、こうみへび座と呼ばれたこともありましたが、星座の中には、同じ生き物で複数の星座が描かれているものがあります。イヌの星座だと、おおいぬ座、こいぬ座、りょうけん座。クマの星座だとおおぐま座、こぐま座。などなど……。

へび年の今年(2025年)は夜空のへびを探してみましょう。

column  
文・浜松科学館 天文チーム 伊藤将宏

